

文部科学省

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成

平成24年度 活動報告書

大阪大学



京都府立医科大学



奈良県立医科大学



兵庫県立大学



和歌山県立医科大学



大阪薬科大学



神戸薬科大学



目 次

I	ごあいさつ			
	大阪大学	事業推進責任者	大学院医学系研究科教授	松浦成昭…1
	京都府立医科大学	コーディネーター	大学院医学研究科教授	三木恒治…2
	奈良県立医科大学	コーディネーター	大学院医学研究科教授	長谷川正俊…3
	兵庫県立大学	コーディネーター	大学院看護学研究科教授	内布敦子…4
	和歌山県立医科大学	コーディネーター	大学院医学研究科准教授	月山淑…5
	大阪薬科大学	コーディネーター	大学院薬学研究科教授	天野富美夫…6
	神戸薬科大学	コーディネーター	大学院薬学研究科教授	水野成人…7
II	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン			8
	—地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成—とは			
III	事業の概要・特徴			9
	1. 各大学が設置するコース			
IV	がんプロ大学院生等に関する調査			18
	1. 養成実績（入学者数・在学者数）			
	2. 発表論文数・学会発表数			
V	講演会・セミナー等開催状況			22
VI	主な活動状況			23
	1. 連携大学合同合宿研修			
	2. 連携大学合同市民公開シンポジウム			
	3. がん患者会との懇談会			
	4. 連携大学附属病院におけるがんサーボードの開催状況			
	5. e-learning クラウドの実施状況			

I ごあいさつ



**近畿(阪大)がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
—地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成—
事業推進責任者**

大阪大学大学院医学系研究科教授 松浦成昭

がん医療を担う医療人の養成を目的として、平成 19 年度から文部科学省の大学改革推進事業「がんプロフェッショナル養成プラン」が開始され、平成 24 年度からはこの事業の成果を受け、優れたがん専門医療人の養成のための教育拠点を構築することを目的として、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」が開始されました。

大阪大学では、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学および和歌山県立医科大学の 5 大学連携の拠点として同プランに選択され、平成 19 年度の開始時から「チーム医療を推進するがん専門医療者の育成」に取り組み、様々な分野において質の高い医療職者の教育を軌道にのせました。

平成 24 年度からは、新たに大阪薬科大学および神戸薬科大学を加えた 7 大学と連携を強化し、同プランによる「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」に取り組み、養成する人材の職種を増やすとともに、職種間連携によるチーム医療の一層の推進を図ることで、どの分野・地域においても同程度の高い医療レベルを達成し、わが国のがん患者が多様な治療手段を選択することが可能となることを目指しております。

連携する 7 大学では、大学間・各コース間連携の講演会、キャンサーボード、教育セミナー等の開催を行うことにより、医師および医療スタッフ間の連携を深め、大学間の交流を密にし、地域・職種間連携を担うがん専門医療者の養成を通じて社会への貢献に努めて参りたいと思っております。

本事業がさらに発展するよう、今後ともご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

連携大学コーディネーターのご挨拶

京都府立医科大学大学院医学研究科
泌尿器外科学 教授
がんプロフェッショナル養成センター長
三木 恒治



平成 19 年度から開始した文部科学省大学改革推進事業がんプロフェッショナル養成プランが平成 24 年 3 月に一定の成果をおさめ終了いたしました。しかしながらいまだがんを専門とする医療従事者が十分ではないことを踏まえて平成 24 年 4 月より新たに 5 か年計画のがんプロフェッショナル養成基盤推進プランが開始されました。がん教育の改革、地域がん医療への貢献、がん研究者の育成の 3 つが重点目標として掲げられています。

京都府立医科大学では、腫瘍専門医育成コース、がん看護専門看護師コース、包括的緩和医療専門医育成コース、集学放射線治療専門医育成コースの 4 つのコースを展開しがん医療従事者の育成に努めております。

特に平成 24 年度から緩和専門医および放射線治療医を育成するコースを新設し幅広い分野の人材育成に取り組んでいます。腫瘍専門医育成コースでは充実した系統講義やカンファレンスの他に後述の取り組みを行っています。複数の科における抗がん剤治療症例を経験するため 1 年生及び 2 年生を中心に順次血液内科、消化器内科、呼吸器内科及び乳腺外科にローテートします。

また外来化学療法センター主催のキャンサーボードに参加し職種・診療科横断的な取り組みについて体験学習します。学外セミナーにも適宜参加し最新のがん治療法についても勉強します。

一方で腫瘍内科医の認知度の向上や各種がんの治療の紹介を兼ねて市民公開講座を開催し広く市民への情報提供にも努めています。

連携大学コーディネーターのご挨拶

奈良県立医科大学大学院医学研究科
放射線腫瘍医学講座
教授 長谷川正俊



優れたがん専門医療人の養成のための教育拠点を構築することを目的としたがんプロフェSSIONAL養成基盤推進プランにおいて、奈良県立医科大学では、がん医療専門医養成コース、がん専門医療スタッフ養成コースの大学院生指導を主体に、幅広くがん専門医療者養成を行っています。

がん医療専門医養成コースである集学的がん治療専門医養成コースでは、放射線療法、化学療法、外科療法、緩和ケア等の適応と有効な組み合わせを理解でき、多職種のスタッフ、専門医からなるチーム医療の中で、適切な集学的がん治療を実施可能な放射線治療専門医を養成することを主目的としています。さらに腫瘍学全般についての専門的指導も行い、総合腫瘍医として活躍できる専門医育成もめざしています。

がん専門医療スタッフ養成コースである放射線治療専門技師・物理士養成コース（修士）、先端的放射線治療専門技師・物理士養成コース（博士）では、標準的、先進的な放射線治療、集学的がん治療に対応可能な技術と知識を持った放射線技師を養成することを主目的としています。放射線治療の専門的な技術、治療計画、線量測定、検証、腫瘍学等を修得して、高精度の放射線治療を適切かつ安全に提供可能にしますが、さらに条件を満たせば、放射線治療専門技師、医学物理士の資格も取得可能です。

平成24年度は、がん医療専門医養成コースに3名、がん専門医療スタッフ養成コースに2名の大学院生が在籍し、講義、実習、臨床実地指導、研究等を行い、研究成果の一部は国際学会、国内学会、学術雑誌等に発表しました。また、関係大学と連携、共催して、大学院生以外も対象に含めたセミナー（奈良県立医科大学放射線腫瘍学教育セミナー、大阪大学放射線治療セミナー）を開催しました。さらに学内では、定期的に三分野のキャンサーボード（計72回）を開催しました。

連携大学コーディネーターのご挨拶

兵庫県立大学
大学院看護学研究科
教授 内布敦子



兵庫県立大学看護学研究科がん看護学専攻は、我が国で最初にごん看護専門看護師教育課程として認定され、これまでに44名（全国総数は432名）のがん看護専門看護師を輩出し、修了生はすでに日本のがん看護のリーダーとして活躍しています。平成24年度は、3名のがん看護高度実践看護師コース（専門看護師教育課程）新入生を迎え、6名の修士学生の教育を行い、平成25年3月には、3名の修了生を輩出しました。25年度は6名のがん看護専門看護師認定申請を予定しています。日本看護系大学協議会では従来の26単位版から38単位版の高度実践看護師教育課程の認定が始まり、兵庫県立大学は先頭を切って7月に申請手続きを行い1月に認定されました。兵庫県立大学看護学研究科は3年前から世界標準のスペシャリスト養成に照準を合わせ、先駆的に45単位程度まで教育課程のグレードアップを行っていたので申請はスムーズでした。コースワークでは授業に医学看護だけでなく心理学等の先端的な講師や患者（合わせて12名）を招聘し教育内容を充実することができました。がんプロ事業の影響で大学院時代から医師や薬剤師等とディスカッションする機会が多く、現場のチーム医療にも良い影響が出始めたと感じています。

24年度は、修士修了生（がん看護専門看護師）のフォローアップと一般看護師を対象にしたインテンシブコースを開催し、従来のカリキュラムで不十分だった遺伝性のがんの最新知見や患者への遺伝相談ロールプレイを含む実践的な講義、看護師が現場で戸惑いがちな代替補完療法のエビデンスの最新情報及び患者対応の考え方などの内容を2日間にわたって提供しました。60名を超える参加者があり、セミナー後の評価も非常に高く、継続的な企画を望むものが多かったことから、引き続きニーズの高いプログラムを提供する予定です。

連携大学コーディネーターのご挨拶

和歌山県立医科大学
大学院医学研究科
准教授
月山 淑



和歌山県立医科大学では診療報酬上は未認可ですが9床の緩和ケア病棟を持ち難治性の症状緩和、高齢がん患者の生活支援、在宅との連携などそれぞれの患者・家族にとって有用なケアを迅速に提供することを目指しています。また、一般病棟入院中のがん患者に対しては緩和ケアチームががん看護専門看護師と身体症状担当医師が専従で、精神的症状担当医師と薬剤師が専任でがん治療中のがん患者・家族のQOL向上に努めています。全人的緩和医療専門医養成コースでは、これらがん患者の病期に応じた緩和ケアを一貫して学べることが本学の大きな特徴です。またがん患者を対象とした臨床研究を行ない学位取得を目指しています。

平成24年10月には、市民公開講座「緩和ケアってどんなこと？がんと診断されたその時から？」を開催しました。和歌山県立医科大学附属病院における緩和ケアの取り組みについて、本学附属病院の各講師から、どのような支援がどこで受けられるのか等を分かりやすく、丁寧にお話しました。市民の皆様に緩和ケアの内容を理解していただくとともに、がんプロの取組を知っていただく良い機会となりました。また統合ケア学習会を4回開催してがん患者の全人的なケアについて学内外の医療従事者と共に臨床現場に即した実践的な学習を行ないました。

連携大学コーディネーターのご挨拶

大阪薬科大学
大学院薬学研究科
生体防御学研究室
教授 天野富美夫



平成 24 年度、本学は大学院薬学専攻にがんプロコースを設置するための準備を行い、学内の教育研究体制の整備はもとより、がんプロ学生たち講義・実習・演習環境の整備を推進しました。神戸薬科大学・大阪大学大学院薬学研究科の協力を得て、具体的な共同開講科目等の検討と準備を行った後に、文部科学省からがんプロコース設置の認定を受けることが出来ました。さらに本コースの受験者を募集した結果、本学修士課程の修了生の中から、がん医療に関わる薬剤師業務を行って来た 2 名の社会人学生が受験し合格しました。

次に、大学内部のがん医療に関する教育・研究体制を整備し拡充するため、2 回のシンポジウムを開催しました。いずれも多数の参加者があり、学生の意識が向上しただけでなく、病院薬剤師・薬局薬剤師の双方の連携を強化する効果が見られました。

平成 24 年度は、神戸薬科大学、大阪薬科大学の双方が、それぞれの主催するシンポジウムに招待して交流を深め、がんプロ参加大学院間における連携が推進されました。

学内においては、学部学生を中心に、がん医療における地域の薬業連携（病院薬剤師と薬局薬剤師間の地域連携）をテーマとする活動を行う基盤を整備した結果、シンポジウムや学会、さらには地域の薬局・診療機関（介護施設を含む）の訪問を行い、薬業連携に必要な方策を研究するようになりました。また、他のがんプロ拠点における薬学系大学院の責任者を訪問し、地域医療の推進によるがん医療の向上を図るための方策を討論し東京地区（癌研、国立がんセンター東病院、千葉大学、慶応義塾大学）、九州地区（九州大学、鹿児島大学）との情報交換や地域医療の推進の方法についての意見交換を行うことが出来ました。

連携大学コーディネーターのご挨拶

神戸薬科大学
大学院薬学研究科主幹
医療薬学研究室 教授
水野成人



神戸薬科大学は、大阪大学を拠点校として平成24年度からスタートした文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」に、大阪薬科大学と共に連携校として参加させていただき、がん専門薬剤師の養成に向けた取組を開始しました。

平成25年度より、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コースの中に新たに「がん専門薬剤師基盤育成コース」を設置することとしております。そして、がん薬物療法において薬学としての専門性を発揮し、個々のがん患者に有効で安全な薬物投与、緩和ケアなどを提供することができる薬剤師の養成を目指しています。さらに、臨床研究の成果を論文としてまとめる能力を有し、チーム医療の一員として患者だけでなく他の医療従事者をもリードすることができる人材の養成を志向したカリキュラムを作成しています。

平成24年度末にがん専門薬剤師基盤育成コースの大学院学生の募集を行いました。残念ながら応募者がありませんでした。活動としては、2月9日に神戸薬科大学第1回がんプロ講演会を開催しました。この会では、拠点代表の大阪大学大学院医学系研究科松浦先生に講演していただき、がん診療の現状や課題、さらにがんプロ事業が目指す将来について詳しくお話しいただきました。また、大阪大学大学院薬学研究科上島先生には、がん治療におけるチーム医療の意義を、薬剤師の役割を中心にご講演いただき、がん専門薬剤師の数が本来必要とされる3,000名の1割程度であることが紹介されました。この講演会により、がん医療の均てん化にむけて本事業の重要性を再確認しました。今後のがん専門薬剤師基盤育成コース学生の確保に向けて、鋭意努力しているところです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Ⅱ がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

—地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成—とは
《連携する 7 大学》 大阪大学 京都府立医科大学 奈良県立医科大学
兵庫県立大学 和歌山県立医科大学 大阪薬科大学 神戸薬科大学

1. がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランとは、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療者養成のための拠点を構築する取組を支援し、これにより、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進していくことを目的とする文部科学省が行う補助事業です。

本補助事業には全国で 15 拠点 100 大学が採択されており、その一つである大阪大学を中心とした近畿圏 7 大学による広域連携プログラムの本事業では、がんの予防・検診から、診断、治療、そして在宅、緩和医療に至るまで、がんのそれぞれの局面に必要な人材養成を行うことにより、全体としてがんの治療成績向上、患者 QOL の改善を実現し、関西地区のがん死亡率最悪からの脱却を目指しています。さらに、大学間の連携を強化することにより、養成するがん専門医療者の職種を増やし、地域におけるがん医療均てん化を推進します。

2. がん専門医療者の養成

本事業では、がん患者さんご家族の方が安心して治療を受けるためには、医師、看護師、薬剤師などの専門職がそれぞれの専門知識を活かし、連携して患者治療にあたるチーム医療が重視されていることから、これらががん専門医療者の養成を行います。

3. がんの予防・検診から診断、集学的治療、在宅そして緩和医療まで

平成 19 年度から実施してきた「がんプロフェッショナル養成プラン—チーム医療を推進するがん専門医療者の育成—」では、医師および医療スタッフの教育体制における取組の充実・発展を図り、大学間の連携体制を拡充したことにより、がん専門医療者の技術・知識等の強化とチーム医療の確立にも成果を挙げてきました。

これらの成果を引き継ぎ平成 24 年度から実施している本事業では、これらを一段と強化するとともに、これまで養成してきた職種に加えて、疫学研究者、病理診断医、外科医等、予防・検診から診断・治療、在宅そして緩和医療にいたる幅広い人材の養成および産学連携・医工連携によるがん研究者の養成を図り、また一方で教育・研究を行う講座の設置や教育体制の確立、国際的視野をもつ人材育成のための国際交流推進など、がんの教育・研究を総合的に行うための基盤を構築することが、本事業の目的です。

Ⅲ 事業の概要・特徴

本事業では大学間の連携を強化することにより、養成する人材の職種を拡大し、関西各地区における医療の均てん化を推進します。薬物・放射線・緩和医療専門医、がん看護、医学物理、細胞検査、薬学各分野の医療スタッフに加えて、疫学研究者養成による予防等のがん対策の推進、病理医養成による診断能の向上を図るとともに、外科治療も強化し、3つの治療法が連携して機能することを目指します。

平成24年度からは、大阪薬科大学および神戸薬科大学の新たな参加により大阪大学と一体化した薬剤師教育・研究の拠点を関西に形成するとともに、職種間連携によるチーム医療の推進にもさらに努力し、産学連携、医工連携による研究も推進します。

各大学が設置するコース

《大阪大学》

◆先端的がん薬物治療専門医・研究者養成コース◆

養成する専門分野：がん薬物療法専門医

修業年限及び募集人員：4年・3人

養成する人材像：がんに関連した先端的な基礎的・臨床的研究を推進することで、専門とする臓器におけるがんの先進的診断、治療を行うとともに、専門外の臓器におけるがんの標準的治療を理解する。さらに、他の専門分野の医療職と連携しチーム医療を実践することで、統合的ながん診療体系を構築できるがん薬物療法専門医を養成する。

◆集学的放射線治療専門医・研究者養成コース◆

養成する専門分野：放射線治療専門医

修業年限及び募集人員：4年・3人

養成する人材像：がん治療チームの一員として腫瘍学全般に広い知識を有するとともに、放射線治療の専門医として各種横断的カンファレンス等において適正な判断および貢献ができる。一方、IMRT、IGRT、定位放射線治療、小線源治療といった高精度放射線治療の高い技能を持ち、特にこれら基礎・臨床研究の能力と意欲を持った放射線治療専門医を養成する。

◆高度臨床医学物理士養成コース◆

養成する専門分野：医学物理士

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：他の専門分野の医療職と連携しチーム医療を実践するとともに、臨床的技能としては、IMRT、IGRT、定位放射線治療といった高精度放射線治療における物理的、技術的基礎を有する他職種では代替できない専門家としての医学物理を提供し、安全かつ安心できる照射を行える医学物理士を養成する。

◆全人的緩和医療専門医・研究者養成コース◆

養成する専門分野：緩和医療専門医

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：がん患者の身体的、心理社会的およびスピリチュアル（実存的）な全人的苦痛に対して全人的ケア（Whole Person Care）の実践と研究ができる指導者を養成する。

◆がん治療先端外科コース◆

養成する専門分野：乳腺専門医、呼吸器外科専門医、消化器外科専門医

修業年限及び募集人員：4年・5人

養成する人材像：がんの外科治療に関する先端的な基礎的・臨床的研究を推進するとともに、他の専門分野の医師、医療スタッフと連携しチーム医療を積極的に推進できる人材を養成する。

◆がん病理診断医・研究者養成コース◆

養成する専門分野：病理専門医

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：分子生物学を取り入れた新しい病理診断学の研究を行い、高精度ながんの病理診断を実践するとともに、医療現場のニーズを良く理解し、チーム医療を積極的に推進できる病理専門医を養成する。

◆がん予防・疫学研究者養成コース◆

養成する専門分野：がん予防・疫学研究者

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：精度の高いがん登録、様々な疫学的解析を行い、医療現場のニーズを良く理解し、チーム医療を積極的に推進するとともに、あわせて行政と連携しがん対策を担えるがん予防・疫学研究者を養成する。

◆がん看護高度実践看護師コース◆

養成する専門分野：がん看護高度実践看護師

修業年限及び募集人員：2年・4人（24年度は3人）

養成する人材像：高度な医療が提供されるがん医療チームにおいて、チーム医療を推進するとともに、熟練したケア技術とキュアの知識を用いて、がん患者及び家族に対して、治療、療養、生活過程を統合した看護を実践することができる看護師を養成する。

◆先駆的がん看護開発研究者養成コース◆

養成する専門分野：看護学博士

修業年限及び募集人員：3年・2人

養成する人材像：国際的視野をもち、がん看護領域における新しい研究課題に取り組み、がん看護学の知識の体系化に寄与できる研究者を育成する。

◆先端医学物理コースⅠ（医療技術系修了者コース）◆

養成する専門分野：医学物理士

修業年限及び募集人員：2年・4人

養成する人材像：がんの医療チームの一員として多職種と連携するとともに、国際社会および地域社会において医療に貢献でき、かつ研究開発能力を持つ医学物理士を養成する。

◆先端医学物理コースⅡ（理工系修了者コース）◆

養成する専門分野：医学物理士

修業年限及び募集人員：2年・1人

養成する人材像：がんの医療チームの一員として多職種と連携するとともに、国際社会および地域社会において医療に貢献でき、かつ研究開発能力を持つ医学物理士を養成する。

◆先駆的医学物理研究コース（博士課程）◆

養成する専門分野：医学物理士

修業年限及び募集人員：3年・1人

養成する人材像：高度な研究開発能力を持ち、次世代の国内外の医学物理分野のリーダーとなり得る医学物理士を養成する。

◆細胞検査高度診断コース◆

養成する専門分野：細胞検査士

修業年限及び募集人員：2年・5人

養成する人材像：分子生物学を取入れた新しい細胞診断学の研究を行い、高度ながん細胞診を実践し、次世代の細胞検査を担うとともに、チーム医療を積極的に推進できる細胞検査士を養成する

◆先駆的病理細胞診研究者養成コース◆

養成する専門分野：細胞検査士、細胞診研究者

修業年限及び募集人員：3年・2人

養成する人材像：分子生物学及び生化学の知識を十分に修得し、病理組織・細胞診断学の研究を行い、次世代の新しい細胞検査を構築するとともに、チーム医療を積極的に推進できる人材を養成する。

◆がん臨床薬学研究者養成コース◆

養成する専門分野：がん専門薬剤師

修業年限及び募集人員：4年（臨床薬学専攻）又は3年（創成薬学専攻）・2人

養成する人材像：がん専門薬剤師としてチーム医療を推進し、多職種と連携するとともに、がんの薬物療法において求められる高い専門知識と研究能力を持ち、がん研究の発展に寄与できるがん臨床薬学研究者を養成する。

◆がん緩和医療薬学研究者養成コース◆

養成する専門分野：がん専門薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師

修業年限及び募集人員：4年又は5年・2人

養成する人材像：がん薬物治療や緩和医療の臨床現場において求められる、高い専門知識と臨床研究能力を持ち、多職種との連携によりチーム医療を推進できる薬剤師を養成する。

◆医工連携がん研究者養成コース◆

養成する専門分野：がん研究者

修業年限及び募集人員：2年・5人

養成する人材像：医工連携教育でがんの先端的な基礎的・臨床的研究を推進するとともに、他の専門分野の医師、医療スタッフと連携しチーム医療を積極的に推進できる人材を養成する。

◆地域連携型がん治療専門医スキルアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：がん薬物療法専門医

期間及び募集人員：1-2年・3人

養成する人材像：専門とする臓器のがんの先進的診断、治療を行うとともに、専門外の臓器におけるがんの標準的治療を理解し、あわせて、他の専門分野の医療職と連携し統合的ながん診療体系を構築できる人材を養成する。

◆産学連携がん研究者養成コース（インテンシブ）◆

受講対象者：がん研究者

期間及び募集人員：1年・5人

養成する人材像：医薬品及び医療機器等の企業の研究者及び研究開発者などに関する産学連携教育を行い、がんの先端的な基礎的・橋渡し研究を推進する企業の人材を養成する。

◆がん看護専門看護師ブラッシュアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：がん看護専門看護師

期間及び募集人員：1年・3人

養成する人材像：がん看護専門看護師の資格取得者に、さらに高度な看護実践能力を取得させることで高度な医療に対応できる能力を身につけさせるとともに、高度な医療が提供されるがん医療チームにおける看護問題に対して、看護の専門家の助言を得ながら対処できる看護師を養成する。

◆がん看護能力スキルアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：①専門看護師 ②訪問看護師、病院看護師

期間及び募集人員：①1回・10人 ②2回・30人

養成する人材像：高度な医療が提供されるがん医療における看護問題について、最新の知識や看護技術に対応できる看護師を養成する。

◆医学物理士スキルアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：医学物理士

期間及び募集人員：1年・4人

養成する人材像：高度な研究開発能力を持ち、次世代の国内外における医学物理分野のリーダーとなり得る医学物理士を養成する。

◆細胞検査士能力開発コース（インテンシブ）◆

受講対象者：細胞検査士

期間及び募集人員：6か月・5人

養成する人材像：市中病院等に勤務する臨床検査技師で細胞検査士を目指す者に対して、細胞診断学の短期研修を行い、多様な分野の最先端の知識・技術を修得した細胞検査士を養成する。

◆細胞検査士スキルアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：細胞検査士

期間及び募集人員：1年・5人（H24）・7人（H25, 26）・10人（H27, 28）

養成する人材像：細胞検査士の資格取得者に細胞診断学レベルアップのための研修を行い、分子生物学を取り入れた新しい細胞診断学の研究を実践するとともに、チーム医療を積極的に推進できる細胞検査士を養成する。

《京都府立医科大学》

◆実践的がん医療のための腫瘍専門医育成コース◆

養成する専門分野：腫瘍内科医

修業年限及び募集人員：4年・4人

養成する人材像：がん医療全般の知識を有し実践的な能力を備え、チーム医療が実践でき国際的にも活躍しうる能力を有する医師を養成する。

◆実践的がん医療のための包括的緩和医療専門医育成コース◆

養成する専門分野：緩和医療専門医

修業年限及び募集人員：4年・1人（H25, 26）・2人（H27, 28）

養成する人材像：緩和医療専門医として全人的苦痛に対する全人的ケアを行い、チーム医療が実践でき国際的にも活躍しうる能力を有する医師を養成する。

◆実践的がん医療のための集学放射線治療専門医育成コース◆

養成する専門分野：放射線治療専門医

修業年限及び募集人員：4年・1人（H25, 26）・2人（H27, 28）

養成する人材像：全科の癌種に対する放射線治療全般の知識を有し、実践的な能力を備えるとともに、チーム医療が実践でき国際的にも活躍しうる能力を有する医師を養成する。

◆実践的がん医療のための本質的大学院教育がん看護専門看護師コース◆

養成する専門分野：がん看護専門看護師

修業年限及び募集人員：2年・2人

養成する人材像：チーム医療を推進するとともに、がん医療の中で複雑な臨床判断能力を行い、治療に伴う有害事象の予防的介入・対処を行う能力を有する人材を養成する。

《奈良県立医科大学》

◆集学的がん治療専門医養成コース◆

養成する専門分野：放射線治療専門医（化学療法、集学的治療もできる）

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：集学的ながん治療を理解して実施可能な放射線治療専門医：放射線療法、化学療法、外科療法、緩和ケア等の適応と有効な組み合わせが理解でき、多職種のスタッフ、複数の専門医からなるチーム医療の中で集学的がん治療を実施できる放射線治療専門医を養成する。

◆放射線治療専門技師・物理士養成コース◆

養成する専門分野：放射線治療専門技師・医学物理士

修業年限及び募集人員：2年・2人

養成する人材像：標準的および高精度の放射線治療、集学的癌治療に対応可能な専門的技術と知識を修得した診療放射線技師を養成する。

◆先端的放射線治療専門技師・物理士養成コース◆

養成する専門分野：放射線治療専門技師・医学物理士

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：高精度放射線治療、集学的癌治療に対応可能な専門的技術と知識を修得した診療放射線技師：放射線治療専門放射線技師、医学物理士の資格も取得し、高精度放射線治療の責任ある指導的立場を担える人材を養成する。

《兵庫県立大学》

◆がん看護高度実践看護師コース（臨床判断能力強化コース）◆

養成する専門分野：がん看護高度実践看護師

修業年限及び募集人員：2年・3人

養成する人材像：がんのチーム医療を推進するとともに、がん医療の中で複雑な臨床判断能力を行い、治療に伴う有害事象への予防的介入・対処が行える看護師を養成する。

◆がん看護専門看護師ブラッシュアップコース（インテンシブ）◆

受講対象者：がん看護専門看護師

期間及び募集人員：3-5日・10人

養成する人材像：最新のエビデンスにアクセスし、実践の質を向上させるとともに研究能力を高め臨床看護研究の担い手となる看護師を養成する。

◆がん看護実践能力強化コース（インテンシブ）◆

受講対象者：看護師

期間及び募集人員：3-5日・30人

養成する人材像：全国のがん診療連携拠点病院において、がん看護を担う看護師として、化学療法、放射線治療、遺伝医療に関する最新の知識を修得し、実践へ活かすことができる看護師を養成する。

《和歌山県立医科大学》

◆全人的緩和医療専門医養成コース◆

養成する専門分野：緩和医療専門医

修業年限及び募集人員：4年・2人

養成する人材像：多職種と対等な視点を持ち、チーム医療を推進するとともに、身体的な痛みだけでなく、精神的、社会的、スピリチュアルな痛み、トータルペインを包括的なケアができるとともに、緩和医療学を学問的に確立・発展させるような研究を実行できる能力を持った人材を養成する。

◆がん薬物療法専門医養成コース◆

養成する専門分野：がん薬物療法専門医

修業年限及び募集人員：4年、2人

養成する人材像：薬物療法(化学療法)に関する高度な知識と技術を持ち、臓器横断的ながん治療を行うとともに、外科医療、緩和医療等の他部門との連携を図ることができ、加えて看護師や薬剤師などとのチーム医療が実践できる人材を養成する。

◆がん看護専門看護師養成コース◆

養成する専門分野：がん看護専門看護師

修業年限及び募集人員：2年・2人

養成する人材像：がん看護に関する高度な知識によりの確な臨床判断ができ、高度な技術を駆使した看護が実践できるとともに、がん患者の身体的・精神的苦痛を理解し、その緩和やがん終末期ケアを提供できる能力を持った看護師を養成する。

《大阪薬科大学》

◆がん専門薬剤師養成コース◆

養成する専門分野：がん専門薬剤師

修業年限及び募集人員：4年・1人（H25, 26）・2人（H27, 28）

養成する人材像：講義・演習・実習を含めて医療現場と連携した教育・研究指導を行うことにより、科学的な根拠に基づいて現場の実践課題を判断し、安全で有効な医療を推進するとともに、医療人として信頼され医療現場で活躍すると同時に、高い研究力を発揮してリーダーシップを取ることができる薬剤師を養成する。

《神戸薬科大学》

◆がん専門薬剤師基盤育成コース◆

養成する専門分野：がん専門薬剤師

修業年限及び募集人員：4年・1人

養成する人材像：がん薬物療法において専門性を発揮し、個々のがん患者に有効で安全な薬物投与、緩和ケアを行うとともに、臨床研究成果を論文としてまとめる能力を有し、チーム医療の一員として患者、医療従事者を指導することができる薬剤師を養成する。

IV-1 がんプロ大学院生養成実績

平成25年5月1日現在

コースを開設している 大学名	コース名	養成する専門分野	①入学者数等						②在学者数(H25.5.1現在)										
			募集人員			受入実績			合計		1年次		2年次		3年次		4年次		
			計	H24	H25	計	H24	H25	計	うち旧 がんプロ からの 移行	在学者数	うち旧 がんプロ からの 移行	在学者数	うち旧 がんプロ からの 移行	在学者数	うち旧 がんプロ からの 移行	在学者数	うち旧 がんプロ からの 移行	
計			110	42	68	82	28	54	107	31	54	0	23	1	16	16	14	14	
京都府立医科大学	実践的がん医療のための腫瘍専門医育成コース	腫瘍内科医	8	4	4	5	1	4	12	7	4	0	1	0	3	3	4	4	
京都府立医科大学	実践的がん医療のための包括的緩和医療専門医育成コース	緩和医療専門医	1	/	1	1	/	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
京都府立医科大学	実践的がん医療のための集学放射線治療専門医育成コース	放射線治療専門医	1	/	1	1	/	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
奈良県立医科大学	集学的がん治療専門医養成コース	放射線治療専門医(化学療法、集学的治療もできる)	4	2	2	0	0	0	3	3	0	0	0	0	2	2	1	1	
和歌山県立医科大学	全人的緩和医療専門医養成コース	緩和医療専門医	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
和歌山県立医科大学	がん薬物療法専門医養成コース	がん薬物療法専門医	0	/	/	0	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	
大阪大学	がん看護高度実践看護師コース	がん看護高度実践看護師	7	3	4	6	3	3	6	0	3	0	3	0	/	/	/	/	
京都府立医科大学	実践的がん医療のための本質的大学院教育がん看護専門看護師コース	がん看護専門看護師	4	2	2	5	4	1	1	0	1	0	0	0	/	/	/	/	
奈良県立医科大学	放射線治療専門技師・物理士養成コース	放射線治療専門技師、医学物理士	4	2	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0	/	/	/	/	
奈良県立医科大学	先端的放射線治療専門技師・物理士養成コース	放射線治療専門技師、医学物理士	4	2	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
兵庫県立大学	がん看護高度実践看護師コース(臨床判断能力強化コース)	がん看護高度実践看護師	6	3	3	6	3	3	6	0	3	0	3	0	/	/	/	/	
和歌山県立医科大学	がん看護専門看護師養成コース	がん看護専門看護師	0	/	/	0	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	
大阪薬科大学	がん専門薬剤師養成コース	がん専門薬剤師	1	/	1	2	/	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	

コースを開設している 大学名	コース名	養成する専門分野	①入学者数等						②在学者数(H25.5.1現在)									
			募集人員			受入実績			合計		1年次		2年次		3年次		4年次	
			計	H24	H25	計	H24	H25	計	うち旧 がんブ ロから の移行	在学者数	うち旧 がんブ ロから の移行	在学者数	うち旧 がんブ ロから の移行	在学者数	うち旧 がんブ ロから の移行	在学者数	うち旧 がんブ ロから の移行
神戸薬科大学	がん専門薬剤師基盤育成 コース	がん専門薬剤師	1		1	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪大学	先端のがん薬物治療専門 医・研究者養成コース	がん薬物療法専門医	6	3	3	6	1	5	12	6	5	0	1	0	2	2	4	4
大阪大学	集学的放射線治療専門医・ 研究者養成コース	放射線治療専門医	6	3	3	7	3	4	12	7	4	0	2	1	5	5	1	1
大阪大学	高度臨床医学物理士養成 コース	医学物理士	4	2	2	3	0	3	5	2	3	0	0	0	1	1	1	1
大阪大学	全人的緩和医療専門医・研 究者養成コース	緩和医療専門医	2		2	0		0	4	4	0	0	0	0	1	1	3	3
大阪大学	がん治療先端外科コース	乳腺専門医、呼吸器外 科専門医、消化器外科 専門医	5		5	9		9	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0
大阪大学	がん病理診断医・研究者養 成コース	病理専門医	2		2	1		1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
大阪大学	がん予防・疫学研究者養成 コース	がん予防・疫学研究者	2		2	2		2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
大阪大学	先駆的がん看護開発研究者 養成コース	看護学博士	2		2	3		3	3	0	3	0	0	0	0	0		
大阪大学	先端医学物理コースI(医療 技術系修了者コース)	医学物理士	8	4	4	10	6	4	10	0	4	0	6	0				
大阪大学	先端医学物理コースII(理工 系修了者コース)	医学物理士	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
大阪大学	先駆的医学物理研究コース (博士課程)	医学物理士	1		1	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
大阪大学	細胞検査高度診断コース	細胞検査士	10	5	5	10	3	7	10	0	7	0	3	0				
大阪大学	先駆的病理細胞診研究者養 成コース	細胞検査士・細胞診研 究者	2		2	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
大阪大学	がん臨床薬学研究者養成 コース	がん専門薬剤師	4	2	2	1	1	0	3	2	0	0	1	0	2	2	0	0
大阪大学	がん緩和医療薬学研究者養 成コース	がん専門薬剤師・緩和 薬物療法認定薬剤師	4	2	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
大阪大学	医工連携がん研究者養成 コース	がん研究者	5		5	1		1	1	0	1	0	0	0				

がんプロインテンシブ養成実績

大学等名：大阪大学

連携大学等名：京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学

平成25年5月1日現在

コースを開設している 大学名	コース名	期間(時間数等)	養成する専門分野	実施形態 (下記※より選 択)	①入学者数(受入実績)					
					合計		H24		H25	
					計	うち旧 がんブ ロ移行	入学者数	うち旧 がんブ ロ移行	入学者数	うち旧 がんブ ロ移行
計					509	0	351	0	158	0
大阪大学	産学連携がん研究者養成 コース	1	がん研究者	1	0	0	/	/	0	0
大阪大学	地域連携型がん治療専門医 スキルアップコース	1-2年	がん薬物療法専門医	1	0	0	0	0	0	0
大阪大学	がん看護専門看護師ブラッ シュアップコース	1	がん看護専門看護師	1	0	0	/	/	0	0
大阪大学	がん看護能力スキルアップ コース (①がん看護専門看護師/② 訪問看護師、病院看護師)	がん看護専門看 護師は1回/年、 訪問看護師、病 院看護師は2回/ 年	看護師(がん専門看護 師、訪問看護師・病 院看護師)	2	333	0	219	0	114	0
大阪大学	医学物理士スキルアップ コース	1	医学物理士	1	0	0	/	/	0	0
大阪大学	細胞検査士能力開発コース	6ヶ月(または3ヶ 月X2クール)	細胞検査士	1	10	0	6	0	4	0
大阪大学	細胞検査士スキルアップ コース	1	細胞検査士	2	166	0	126	0	40	0
兵庫県立大学	がん看護専門看護師ブラッ シュアップコース	集中講義・演習 (3-5日間)	がん看護専門看護師	2	0	0	/	/	0	0
兵庫県立大学	がん看護実践能力強化コー ス	集中講義・演習 (3~5日間)	看護師	2	0	0	/	/	0	0

※ 実施形態については、下記番号いずれかを選択

- 1.科目等履修生等の制度利用によるもの。(大学院等で開設している科目を履修することを要件とすることを含んでいるコース)
- 2.公開講座、研修等の制度利用をしているもの。(科目等履修生等の学則上の制度利用をしていないもの)
- 3.その他(備考欄に実施形態を記載:基本的には1.2いずれかに分類すること)

IV-2 発表論文数・学会発表数

平成25年3月31日現在

コース名	論文数	学会発表数			
		H24年度			合計
	H24年度	口頭	ポスター		
先端のがん薬物治療専門医・研究者養成コース	2	1	0	1	
集学的放射線治療専門医・研究者養成コース	0	5	0	5	(1)
がん看護高度実践看護師コース	0	1	0	1	
先端医学物理コース I	1			0	
医学物理士(博士後期課程)養成コース(旧)	1			0	
実践的がん医療のための腫瘍専門医育成コース	0	1		1	
集学的がん治療専門医養成コース	10	8		8	(2)
合計	14	16	0	16	(3)

*1 論文数は、各コースに所属する学生が発表した論文数(がんに関連したもの、かつ筆頭・主題のみ)を記入

*2 学会発表数の()内には海外での発表数(内数)を記入

V 講演会・セミナー等開催状況

平成25年3月31日現在

区分(*1,*2)	講演会・連携事業等の名称	開催数/参加人数		備考
		H24年度		
		開催数	参加人数	
市民向けの公開講演会・セミナー等の開催	文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 市民公開シンポジウム—がんの制圧に必要な人材の養成: 予防・検診から診断・治療ま	1(1)	851	
	市民公開講座 「緩和ケアってどんなこと? ~がんと診断されたその時から~」			
	公開シンポジウム 「がん医療を支える薬剤師」			
	大阪大学医学部附属病院 市民公開フォーラム がんの予防と早期診断~がんを早く見つけるために~			
	市民公開講座「がん治療と放射線治療」			
	市民公開講座「京都市内のがん医療の専門医によるがん医療の最前線」			
教員の指導技術向上等のための ファカルティディベロップメント	日本の緩和医療教育の現状	1	130	

注 *1 事業推進責任者が関与したものを記入(事業推進責任者が関与せず、各講座や各診療科等が主体で実施しているものは除く)

*2 開催数/参加人数(延べ)の()内には、地方自治体との共催数、共催した時の参加人数を内数で記入

VI-1 連携大学合同合宿研修

日 時：平成 24 年 9 月 1 日（土）～2 日（日）

場 所：高野山真言宗「常光円満寺」（大阪府吹田市元町 28-13）

参加者：65 人 教員（20 人）大学院生（40 人）事務員（5 人）

大阪大学	集学的放射線治療専門医・研究者養成コース	7 人
	がん看護高度実践看護師コース	5 人
	先端医学物理コースⅠ	8 人
	高度臨床医学物理士養成コース	1 人
	細胞検査高度診断コース	7 人
	がん臨床薬学研究者養成コース	1 人
京都府立医科大学	集学放射線治療専門医育成コース	2 人
	本質的大学院教育がん看護専門看護師コース	1 人
奈良県立医科大学	放射線治療専門技師・物理士養成コース	2 人
兵庫県立大学	がん看護高度実践看護師コース	6 人

スケジュール

9 月 1 日（土）

- ～13：00 「常光円満寺」に集合
- 13：00～13：20 オリエンテーション、写真撮影
- 13：20～13：25 事業推進責任者から挨拶
- 13：25～13：50 各コース責任者から自己紹介
- 13：50～14：30 学生自己紹介
- 14：30～17：00 背景説明、班別討議（ⅠⅡ）、討議内容の整理
- 17：00～18：50 男性入浴
- 18：00～19：00 夕食（大広間）
- 19：00～23：00 懇親会
- 19：00～21：00 女性入浴

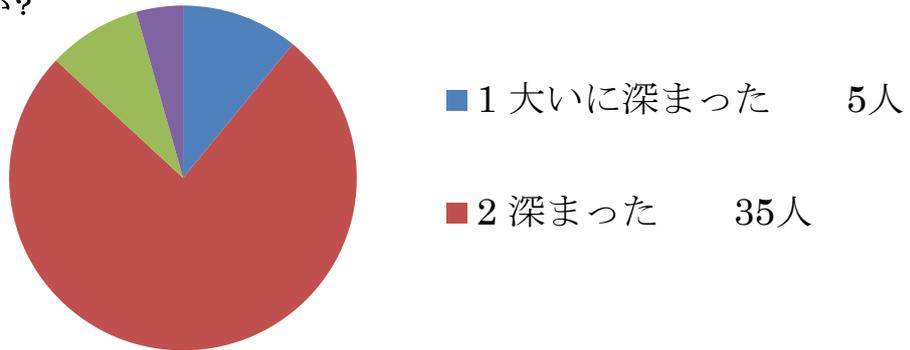
9 月 2 日（日）

- 7：00～8：00 朝食（大広間）
- 8：00～8：30 休憩（荷物整理）
- 8：30～10：10 全体討議（班別討議Ⅰ・Ⅱの発表）
- 10：10～10：20 休憩
- 10：20～11：50 講演「乳がんになって考えたこと～自身の体験とこれから」
- 11：50～12：00 閉会の挨拶
- 12：00～ 現地解散

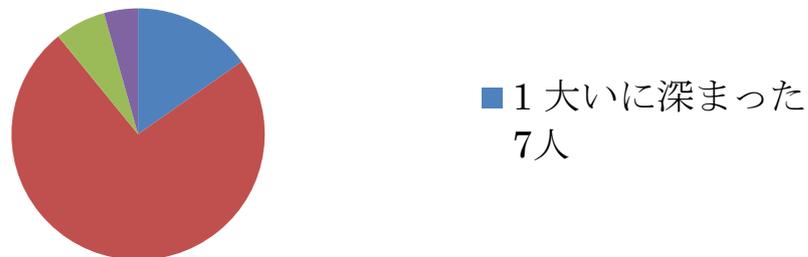


アンケート結果

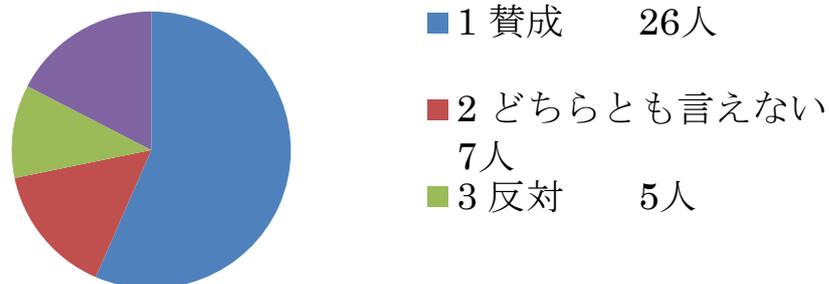
Q1. 今回の合宿研修において、がん医療における「チーム医療」への理解が深まりましたか？



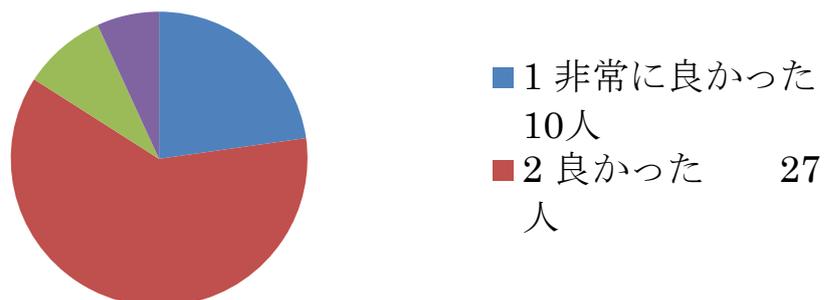
Q2. 今回の合宿研修において連携大学の大学院生・教員間の交流は深まりましたか？



Q3. 今後とも、今回のような合宿研修を定期的に行うことについて、ご意見をお聞かせください。



Q6-1. 他職種とのコミュニケーションという意味で、いかがでしたか？



総括

症例検討では、「がんセンターボード」のテーマとして、「各医療職者が治療方針等に関して横断的に話し合う」場として班別討議および全体討議を行った。

班別討議では、各職種により経験および知識に相違点があったことから、班全体で深く掘り下げた議論とまではいかなかったものの、互いの職種の考え方が認識され、チーム医療を推進するには、他職種の業務を理解するとともに、コミュニケーションを密にし、協力関係を築くことの重要性が認識され、研修の成果があったものと思われた。



VI-2 連携大学合同市民公開シンポジウム

日 時：平成 24 年 7 月 29 日（日）14 時～17 時

場 所：大阪大学中之島センター

タイトル：—がんの制圧に必要な人材の養成：予防・検診から診断・治療まで—

内 容：講演会場では、講演Ⅰで文部科学省高等教育局医学教育課長村田善則様から「がんプロフェッショナル養成プランの成果と今後の展開」を、講演Ⅱで山本孝史のいのちのバトン代表山本ゆき様から「がん対策基本法の原点に立ち返って」を、その後パネルディスカッションで連携大学教員 11 名による「がんを防ぎ、見つけ、治すための討論会（キャンサーボード）を通じて」行った。

一方、会議室を間仕切った個別ブースにおいて、大腸がん、乳がん、薬物療法、放射線療法及び緩和医療に関して、患者さんと関係医師による「個別相談会」を開催した。



プログラム：

14:00~14:05 開会挨拶 事業推進責任者・大阪大学大学院医学系研究科教授 松浦 成昭
14:05~14:20 講演Ⅰ 「がんプロフェッショナル養成プランの成果と今後の展開」
文部科学省高等教育局医学教育課長 村田 善則

14:20~15:20 講演Ⅱ 「がん対策基本法」の原点に立ち返って
山本孝史のいのちのバトン代表
大阪がん医療の向上をめざす会共同代表 山本 ゆき

15:20~16:40 パネルディスカッション 医療人材養成はどのようにがんの医療を良くするのか？

-がんを防ぎ、見つけ、治すための討論会（キャンサーボード）を通じて-

1) このようにしてがんを防ぐ（予防）

ショートレクチャー 祖父江友孝(大阪大学大学院医学系研究科環境医学教授)
症例検討：健康人のがん予防

2) このようにしてがんを見つける（検診と診断）

ショートレクチャー 森井 英一（大阪大学大学院医学系研究科病理学教授）
症例検討：がんの画像診断、病理診断のプロセス

3) このようにしてがんを治す（治療）

症例検討：(1)治療方法の選択 (2)再発治療 (3)緩和医療

パネリスト

司 会：内布敦子（兵庫県立大学）水木満佐央（大阪大学）

腫瘍内科医：吉田直久（京都府立医科大学）

放射線治療医：長谷川正俊（奈良県立医科大学）

緩和医療医：恒藤暁（大阪大学）

病理医：森井英一（大阪大学）

がん看護専門看護師：田墨恵子（大阪大学）

医学物理士：大谷侑輝（大阪大学）

細胞検査士：南雲サチ子（大阪大学）

がん専門薬剤師：上島悦子（大阪大学）

主治医（外科医）：松浦成昭（大阪大学）

【507 会議室】

14:00~16:20 がんに関する相談会（大腸がん、乳がん、薬物療法、放射線療法、緩和医療）



VI-3 がん患者会との懇談会

本事業の推進にあたっては、国民の視点から乖離することなく、事業目的を効果的に達成するためには、がん患者会の方々と意見交換を行い、適切なアドバイスをいただくことが必須と考え、同会のご賛同をいただき、本懇談会を開催しました。

がんの医療人材の育成にあたって助言をいただくとともに、がんプロ事業の情報発信の1つでもある市民公開シンポジウム等の開催にあたって、運営方法の助言をいただければと考えから、今後は年1~2回の頻度で開催を計画しています。

第1回

日 時：平成25年2月6日（水）14：00～16：00

場 所：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻大会議室

出席者：大阪がん医療の向上をめざす会共同代表 山本ゆき様他5名
事業推進責任者松浦成昭他25名

内 容：第1回目の会合でもあり、お互いの自己紹介、本事業内容および患者会各団体の活動状況の説明、および今後とも本会を定期的に開催し、本事業で行う公開シンポジウムへの助言・協力依頼を行い、ご了解をいただいた。



VI-4 連携大学附属病院におけるカンサーボードの開催状況

平成24年度開催状況

	大阪大学	京都府立医科大学	奈良県立医科大学	兵庫県立大学	和歌山県立医科大学	大阪薬科大学	神戸薬科大学
回数	11回 (8月を除く毎月第3金曜日)	10回(月1回)	12回 毎月1回月曜日 15~20人程度 48回 毎週水曜日 10~15人程度 12回 毎月1回木曜日 25~30人程度	該当なし	7回	該当なし	該当なし
参加職種	医師、看護師、医学物理士、薬剤師、がんプロ大学院生	医師、看護師、薬剤師、がんプロ大学院生	医師、研修医、放射線技師、看護師、がんプロ大学院生	該当なし	医師、看護師、薬剤師、医療技師、研修医	該当なし	該当なし
参加者数	20~30人	15人	延べ約1120人	該当なし	10~20人	該当なし	該当なし

VI-5 e-learningクラウド

	学生	教員
登録人数	大阪大学 68名	大阪大学 47名
	京都府立医科大学 29名	京都府立医科大学 31名
	兵庫県立大学 16名	兵庫県立大学 3名
	奈良県立医科大学 5名	奈良県立医科大学 1名
	和歌山県立医科大学 1名	和歌山県立医科大学 2名
	大阪薬科大学 2名	大阪薬科大学 2名
	合計 121名	神戸薬科大学 3名
		合計 89名
登録講義数	共通科目:15講義 専門科目:32講義 合計:47講義	

全国がんプロe-learningクラウド 阪大拠点アップロード状況(共通科目)

ジュークボックス	講義タイトル	講義名	担当講師	公開範囲
共通1-6	医療統計学 1	臨床試験のデザイン・統計的視点	濱崎 俊光	
共通3-5	がん発生と予防/化学予防	記述疫学・発がん要因・予防	大阪府成人病センター 津熊 秀明	
共通3-7	がん検査医学	がんの臨床検査と生化学診断	三善 英知	自大学のみ
共通3-8	がんの画像診断法	がんの画像診断	富山 憲幸	自大学のみ
共通4-3	放射線腫瘍学/放射線生物学	電離放射線と生物効果～放射線治療の原理	小泉 雅彦	
共通4-5	薬物療法の諸理論Ⅰ	がんの薬物療法Ⅰ	西田 勉	自拠点のみ
共通4-6	薬物療法の諸理論Ⅱ	がんの薬物療法Ⅱ	長友 泉	
共通4-8	代表的疾患の標準治療1 消化器がん	臨床腫瘍学総論Ⅱ 胃がん・食道がん	黒川 幸典	
共通4-9	代表的疾患の標準治療2 肝・胆・膵	臨床腫瘍学総論Ⅱ 肝・胆・膵	川本 弘一	
共通4-11	代表的疾患の標準治療4 造血器腫瘍	造血器腫瘍の診断と治療	水木 満佐央	
共通4-13	代表的疾患の標準治療6 泌尿器科がん	泌尿器科悪性腫瘍について	守谷慶友病院 斑目 旬	自拠点のみ
共通4-14	代表的疾患の標準治療7 婦人科がん	婦人科腫瘍	藤田 征巳	自大学のみ
共通4-15	代表的疾患の標準治療8 皮膚がん/骨・軟部腫瘍	骨・軟骨腫瘍	中 紀文	
共通4-16	代表的疾患の標準治療9 小児がん	小児がん総論	橋井 佳子	
共通7-12	生体防御機能と病態生理	がんの引き起こす症候	三善 英知	自大学のみ

全国がんプロe-learningクラウド 阪大拠点アップロード状況(専門科目)

ジュークボックス	講義タイトル	講義名	担当講師	公開範囲
専門1-外科6	頭頸部がん	頭頸部腫瘍	山本 佳史	自拠点のみ
専門1-外科12	消化器がん(食道)	臨床腫瘍学総論Ⅱ 食道・胃がん	瀧口 修司	
専門1-外科17	消化器がん(胆・膵・脾も含む)	臨床腫瘍学総論Ⅱ 胆・膵・脾がん	江口 英利	
専門1-外科23	性腺胚細胞腫/性腺外胚細胞腫	胚細胞腫(精巣腫瘍)の特徴と化学療法	三木 恒治	
専門1-外科27	泌尿器がん(前立線がん)	前立腺癌の診断と治療	野々村 祝夫	自拠点のみ
専門1-外科30	プラスα枠1	手術・内視鏡治療と治療関連有害事象	松浦 成昭	
専門2-内科5	臨床薬理学(PK・PD・PG)	臨床がん薬理学	上島 悦子	自拠点のみ
専門2-内科19	消化器がん(大腸がん)	大腸癌の診断、内視鏡治療および外科切除と進行例に対する抗癌剤治療	吉田 直久 京都府立医科大学	
専門2-内科9	造血器腫瘍(その他)	多発性骨髄腫の診断と治療	谷脇 雅史 京都府立医科大学	
専門3-放射線4	中枢神経腫瘍	脳腫瘍の放射線治療	長谷川 正俊 奈良県立医科大学	
専門3-放射線12	婦人科がんⅠ	子宮頸がんに対する放射線治療	磯橋 文明	
専門3-放射線17	血液系腫瘍(悪性リンパ腫)	脳腫瘍・悪性リンパ腫の放射線治療	小西 浩司	
専門4-緩和1	緩和医療概論	がんの緩和ケア	恒藤 暁	
専門4-緩和1	緩和医療概論	症状緩和-がん疼痛-	月山 淑 和歌山県立医科大学	
専門4-緩和8	疾患および症状の管理Ⅰ(疼痛)	緩和医療Ⅰ	恒藤 暁	
専門4-緩和9	疾患および症状の管理Ⅱ(消化器系症状)	緩和医療Ⅱ	恒藤 暁	
専門6-薬学2	抗がん薬概論Ⅱ(分子標的薬)	抗腫瘍医薬品学持論 発がん抗がん 有機化学的基盤から分子標的医薬まで	小比賀 聡	自拠点のみ
専門6-薬学6	薬剤耐性とトランスポーター	Cell Delivery Systemによる癌免疫療法の最適化	中川 晋作	
専門7-医学物理11	放射線治療物理学Ⅰ(空間的線量分布)	放射線治療物理	隅田 伊織	
専門7-医学物理14	放射線治療物理学Ⅳ(粒子線治療)	放射線治療物理学Ⅱ	尾方 俊至	自拠点のみ
専門7-医学物理24	放射線治療物理学総論Ⅰ(放射線治療法)	放射線治療の実際	吉岡 靖生	
専門7-医学物理26	放射線防護(放射線防護の基本理論)	放射線物理と防護	高階 正彰	

ジュークボックス	講義タイトル	講義名	担当講師	公開範囲
専門8－細胞診2	細胞診総論(細胞診の歴史・構造・判定基準)	細胞診総論	南雲 サチ子	
専門8－細胞診3	呼吸器Ⅰ(正常細胞・扁平上皮癌・腺癌)	呼吸器の細胞診	南雲 サチ子	
専門8－細胞診4	呼吸器Ⅱ(小細胞癌・大細胞癌・特殊型・感染症・早期扁平上皮癌)	呼吸器の細胞診2	南雲 サチ子	
専門8－細胞診8	消化器(食道・胃・胆・膵・肝)	食道・胃・大腸の細胞診	南雲 サチ子	
専門8－細胞診11	泌尿器・リンパ節(尿・リンパ節腫瘍穿刺及び捺印)	泌尿器・リンパ節の細胞診	南雲 サチ子	
専門14－看護理論7	セルフケア理論の理解と活用	がん看護に用いられる理論	内布 敦子	
専門14－看護理論8	がん看護に活用できる看護理論	エンパワーメントの理論と実際	内布 敦子	
専門15－看護援助10	プラスα枠2	グループコンサルテーションとしての事例検討のすすめ方	内布 敦子	
専門15－援助看護11	プラスα枠3	専門看護師のための看護コンサルテーション	内布 敦子	
専門40－画像診断1	画像診断学総論	核医学診断	巽 光朗	自拠点のみ